

INAXガレリアセラミカは“新鋭作家による新しいやきものの表現の場”として企画展を開催しています。

高柳むつみ展

くうきをうつす 磁器 / やまびこのアロー

会期 = 2011年1月11日(火) ~ 2月1日(火)

休廊日 = 日曜・祝日

開館時間 = 午前10:00 ~ 午後6:00

作家によるアーティスト・トーク開催 = 1月11日(火) 午後6:30 ~ 7:00

会場 = INAXガレリア セラミカ

東京都中央区京橋3 - 6 - 18 INAX:GINZA2F TEL03-5250-6530

企画・制作 = 株式会社INAX

入場無料

INAXの文化活動ホームページアドレス <http://www.inax.co.jp/culture/>



「からだに飛び込む脳のクラウン」 2010 H600 x 600 mm

* 本展告知以外での使用、転載を禁じます。ご使用に際しては撮影者名をお入れください。

* 容量が足りない場合および、その他の写真については、担当者までお問合せください。

【メール】hideko.hasegawa@i2.inax.co.jp 【担当】長谷川英子

同時開催予定

ギャラリー1『幕末の探検家松浦武四郎と一畳敷展』展 開催中 ~ 2011.2/19 日祝休廊

ギャラリー2『青木千絵』展(漆) 1/7 ~ 1/28 日祝休廊

次回予告

ガレリアセラミカ『田中礼』展 2012年2月4日 ~ 3月1日

INAXガレリアセラミカでは、高柳むつみ(Takayanagi Mutsumi)展 くうきをうつす 磁器ノやまびこのアロー を開催します。(2012年1月11日～2月1日)

高柳むつみの作品は、磁器に古典的な中国風の絵付けや金彩が施された、端正で華やか、凜としたたたずまいのオブジェです。一方で、「からだに飛び込む脳のクラウン」「ひかるひらめき」「転がるアンサー」「ゆうえんちの真実」「ぐるぐるの風景」…どれもユーモラスで宇宙的なタイトルが印象的です。オブジェとしての完成度の高さもさることながら、そこに込められたストーリーが作品全体に不思議な求心力を与えています。

プラチナ彩で鈴のついた電球は、マンガでひらめきを表す頭の横に飛び出す記号。うつわを重ねて回転するアンサー。金色の球がお皿に飛び込んで赤いしぶきをあげる「からだに飛び込む脳のクラウン」は、頭ばかりではなく全身で考えたいという思いを表し、ひらめいたアイデアが転がって大きくなり、からだ全部で表現するという思いにつながります。

「ゆうえんちの真実」では地元富山の立山曼荼羅から地獄絵図をモチーフにして、地獄の七層を下るテーマパークを九谷焼の壺を模して組み立てました。フォルムの違ういくつもの壺や皿がタワー状に積み重なり、壺の天辺から蜘蛛の糸に乗って血の池地獄に下り、鬼に蹴られ、象に踏まれ、鳥に攫われ、火に焼かれ、最後は出口へ。阿鼻叫喚、と見せかけて実は楽しんでいる風景が色鮮やかな絵付けで描かれています。

高柳は、大学の工芸基礎で、ろくろをひき、窯とやり取りする面白さから陶芸に進みました。在学中にはフィンランドへ留学し生活から生まれるものづくりを学んでいます。大学院に進んだ後は、改めて日本の陶芸の歴史を学びながら、季節を空間へ取り込むことや、異素材との組み合わせで生まれるやきもの魅力を感じ、つくり続けています。新春に華やかな光を呼び込むような高柳むつみの世界をぜひ会場でご覧ください。

【高柳むつみプロフィール】

富山県出身

2008 京都市立芸術大学 卒業

ヘルシンキ芸術大学に派遣留学

2010 京都市立芸術大学大学院 陶磁器専攻科修了

受賞歴

2008 京都市立芸術大学 作品展 市長賞

2010 京都市立芸術大学 作品展 同窓会賞

展覧会

2005 京都市立芸術大学 作品展：京都市美術館
(2010年まで各年)

2007 手のひらカフェ / 蔵
陶テン / ギャラリー集

2008 手のひらカフェ'08 / 堺町画廊

2009 Led by Form - Production in Series / フィスカルス, フィンランド

手のひらカフェ'09 / 堺町画廊

アジア現代陶芸 新世代の交感展 / 愛知県陶磁資料館

四条ストリートギャラリー / 高島屋 京都店

2010 手のひらカフェ'10 / monoff

懐石の器展 / ギャラリー器館

もうそうのふきだし展 / ギャラリーマロニエ

アジア現代陶芸展 / 弘益大学, 韓国